

ナシの早期成園化

技術の概要

原発事故からのナシ産地再生

ジョイント樹形

- 列間3m、樹間1.5~2.0mで植栽
- 主枝を棚下15cmに配置し隣接樹と結合



新一文字樹形

- 列間3m、樹間6~7mで植栽
- 棚下15cmに2本の主枝を直線上に配置



期待される効果

両樹形とも早期成園化に効果的

ジョイント樹形

「あきづき」の定植後
3年目(5年生)の収量

10a当たり3t以上の
収量確保

新一文字樹形

「豊水」の定植後
3年目(4年生)の収量

10a当たり1.5t以上の
収量確保

省力化が可能

新一文字樹形の10a
当たりの作業時間

摘果作業を中心に慣行樹
形よりも17%削減

【お問い合わせ先】

果樹園の早期成園化を可能とする実証研究コンソーシアム

研究代表機関 福島県農業総合センター果樹研究所

栽培科 (TEL 024-542-4191 FAX 024-542-4749)

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37201a/>